

Abstract

FVIII インヒビターを有する軽症の高齢血友病A患者において遺伝子組換え活性型第VII因子製剤 (NovoSeven) は有効かつ安全な治療薬である

Effective and safe use of recombinant factor VIIa (NovoSeven®) in elderly mild haemophilia A patients with high-titre antibodies against factor VIII

F. W. G. Leebeek, M. C. Kappers-Klunne and K. S. G. Jie

第VIII因子 (FVIII) に対する高力価インヒビターを有する高齢の軽症血友病A患者3例について報告する。これらの患者の過去のFVIII製剤曝露日数は、2例が50日未満、1例が50～100日と限られたものであった。これらの患者は、外科手術または再発性の出血のために来院した患者であった。遺伝子組

換え活性型FVII (rFVIIa) 製剤は有効かつ安全な治療薬であった。1例は冠動脈疾患があったにもかかわらず、有害事象や血栓性合併症は生じなかった。これらの結果は、過去にFVIIIインヒビターが検出されたことのない高齢の軽症患者においても、医師は常にインヒビターの発生に注意しなければならないこと、そしてrFVIIa製剤は有効かつ忍容性に優れていることを示している。

Haemophilia (2004), 10, 250–258
© Blackwell Publishing Ltd.

Abstract: L. M. P. Lepatan, et al.

Abstract

血友病B症例の止血治療における第IX因子源としてのクリオプレシピテート除去血漿の有用性

Cryoprecipitate-removed plasma 'cryo-removed plasma' as a source of factor IX in the treatment of haemophilia B

L. M. P. Lepatan, F. G. Hernandez, M. M. Montoya, J. B. Ong, E. V. Rodriguez and M. N. Chua

フィリピンでは新鮮凍結血漿 (FFP) が血友病B患者の止血治療における主な第IX因子 (FIX) 源である。フィリピンにおいて cryosupernate として知られるこのクリオプレシピテート除去血漿は、クリオ製剤の副産物である。これらの血液由来産物は貯蔵中に有効期限が切れたり、あるいは臨床的にあまり需要がないとの理由で廃棄されてしまう。理論的にこれらの産物はFFPと同量のFIXを含有していると考えられることから、血友病Bの治療に利用できるはずである。クリオプレシピテート除去血漿中のFIX含有量についてはこれまでのところデータがない。そこで我々は、クリオプレシピテート除去血漿中のFIX含有量およびFIX活性を評価し、この産物が臨

床的に利用可能であることの証明を試みた。マニラにある3つの血液銀行から83個のクリオプレシピテート除去血漿バッグを入手し、活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) に基づく1段法のFIXアッセイによりFIX活性を測定した。各バッグのFIX含有量は、各バッグの容量 (mL) に *in vitro* で測定した血漿1 mL当たりのFIX活性値を掛けて算出した。1バッグ当たりの平均FIX含有量は212.20 (± 88.98) 単位で、American Association of Blood Banks (AABB) により定められた含量値 (70～90単位) を超えていた。1バッグ [平均容量164.28 (± 52.23) mL] 当たりの平均FIX活性は127.62 (± 38.23) %であった。バッグの容量は入手先により有意に異なっており ($p = 0.000$)、結果的にFIX含有量にも有意な違いが認められた ($p = 0.000$)。

Haemophilia (2004), 10, 254–258
© Blackwell Publishing Ltd.